

感染免疫学

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・井上都之

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：33

■ 授業概要

人間と関わりのある微生物の特徴と発症の要因、感染と生体防御のしくみ、免疫について教授する。また主な感染症が人間の生活にどのような影響を及ぼしているのか、院内感染管理及び看護の場における最新の感染予防対策について教授する。これらを基盤に、肺炎、結核をはじめとした主な感染症とともに輸入感染症や薬剤耐性菌の感染経路、制御対策に関して教授する。

■ 到達目標

1. 主な病原体と感染症についての基本的知識がある。
2. 人体の感染防御機構についての基本的知識がある。
3. 感染症の仕組みについての基本的な知識がある。
4. 感染症の診療と感染制御についての基本的な知識がある。
5. 感染症の患者に対する対応の仕方についての基本的な知識がある。

■ 教育内容

人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進

■ キーワード

病原微生物、医動物、感染症、生体防御機構、感染制御、隔離予防策

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	病原微生物総論 1：細菌学	講義	井上
2	病原微生物総論 2：ウイルス学	講義	井上
3	病原微生物総論 3：真菌学・医動物学	講義	井上
4	人体の感染防御機構	講義	井上
5	感染症	講義	井上
6	感染症の検査と治療	講義	井上
7	感染症の制御	講義	井上
8	呼吸器感染症 1	講義	井上
9	呼吸器感染症 2	講義	井上
10	消化器感染症 1	講義	井上
11	消化器感染症 2	講義	井上
12	皮膚・粘膜・創傷感染症 1	講義	井上
13	皮膚・創傷・粘膜感染症 2	講義	井上
14	性感染症、尿路感染症	講義	井上
15	その他の感染症医療関連感染症など	講義	井上

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

試験

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

必要に応じて学務課を通して行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
疾病の成り立ち ③ 臨床微生物・医動物

■ 参考書・参考資料等

- ・藤本秀士編著、他著（2017）『わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂3版』南山堂
- ・南嶋洋一他著（2022）『系看護学講座－専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 第14版』医学書院
- ・操華子他著（2022）『感染看護学』南江堂
- ・神谷茂他監訳（2012）『微生物学－基礎から臨床へのアプローチ』メディカル・サイエンス・インターナショナル

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度必要とする。
- ・事前学修として、シラバスの授業項目に関連した範囲の教科書を読み、内容をノートに要約すること。
- ・事後学修として、授業時配付資料とノートを読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。

■ 担当教員からのメッセージ

感染予防は看護師の職務の基本です。感染症とその制御についてしっかり学びましょう。講義の前にテキストの該当部分を眺めておくと理解しやすいと思います。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

入院患者への看護実務、感染症患者の看護実務、各種医療・福祉施設での感染症のサーベイランス・調査・研究の実施

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護実務経験、病院、特別養護老人ホームや保育園等での感染症、病原体、感染予防策等についての調査・研究や指導経験など踏まえ実践的な教育を行います。